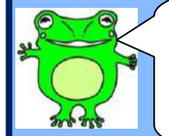
学校と博物館をつなぐ情報誌　No.２０６（令和元年９月号）

いのちのたび

〒805-0071　北九州市八幡東区東田二丁目４番１号
Tel 681-1011　**Fax** 661-7503
http://www.kmnh.jp/
発行：いのちのたび博物館　ミュージアムティーチャー

祝・総入館者数７００万人突破！

７月１１日（木）、いのちのたび博物館は開館以来の総入館者数が700万人に達しました。13日（土）には700万人突破記念セレモニーを行い、多くのお客様にお祝いいただきました。また、夏の特別展は８万人を突破し、大好評をいただいております。９月１６日（月・祝）まで開催しております。みなさまのご来館を心よりお待ちしております。



２学期がスタートしたね。久しぶりに先生やお友達と会い、色々なお話で盛り上がっているかな？今日は、みんなにイベントの様子を紹介するね。

えさやり見学
えさを食べる食重な姿は必見！
毎週 火・木 9/14(土)～16(月祝) 曜日(8/13,15は除く)
1日2回 11:00～12:00 14:00～15:00

今日のご飯は、トマト！
上手に食べるから、みんな驚くんだよ！

ギャラリートーク
両生類・は虫類の生体などを学芸員が解説！
7/26(金)・8/9(金)・8/23(金)・9/7(土)
全4回、各日とも14:00～14:30

9月7日（土）
ギャラリートーク最終回

学芸員江頭博士による分かりやすいお話だよ。
これを聞けば、ミニ博士になれるかも…？
楽しく学べるから、みんな来てね♪

タッチ The カメ
リクガメにさわれるよ！
毎週 水 9/14(土)～16(月祝) 曜日(8/14は除く)
1日2回 11:00～12:00 14:00～15:00

かわいい子ガメだね。
甲羅って意外とツルってしているんだね。驚き！

サプライズ！ヘビ現れるの巻

ヘビ博士が詳しく教えてくれるから、全然怖くなかったよ。
ヘビを触れる貴重な体験を通して、もっとヘビの身体のしくみを勉強したくなったよ！

今回の特別展、色々なお友達がたくさん遊びに来てくれ、嬉しいケロッ！
ところで、江頭博士！博士はどのような子どもだったの？

引っ込み思案で、人前に出ることが苦手だったんだよ！

それにね、僕は今までたくさんの失敗をしているんだ！岩壁に張り付いて鳴いていたヒキガエルの一種を採ったんだけど、手に持ったままだと岩壁を降りられないから仕方なく優しく口に咥えて降りたところ、唇が腫れてヒリヒリ傷んだこともあるよ。生き物を研究することで色々なことが分かってくるんだ！展示を通して、僕たちヒトが今後どのような生き方をすればあらゆる生物と共存できるのか…僕はそのことをみんなに伝えたいんだ。だから、みんなも失敗を恐れずにたくさんチャレンジして欲しいって思ってるよ！

びっくりカエルぁ！だって博士はたくさんのお客様の前でも、堂々とお話をしているよ。それにとっても分かりやすくて、面白いのに…意外だったケロッ。

僕たちは人間から「きもち悪いもの」「怖いもの」として思われがちだから、実は展示されることに自信がなかったケロッ！でも、博士の愛情たっぷりの展示方法のおかげで、多くのお客様の笑顔をみることができて、幸せな時間を過ごしているケロッ。江頭博士！共存することの大切さをみんなに教えてくれてありがとう♪

【学芸員のよもやまばなし】

クロコダイルとアリゲーターの顔の違い

ワニは現生のハ虫類ではもっとも恐竜に近いなかまで，実際に大型のワニには大型肉食恐竜を思わせる迫力があります。日本に住んでいると生きたワニを目にする機会は少ないでしょうが，剥製としては，もしかしたらみなさまのご自宅にも眠っているかもしれませんね。

ワニを指す一般的な英語名には，クロコダイル：Crocodile とアリゲーター：Alligator があります（さらに細かく分けると，カイマンという呼称もある）。この二つには，生物学的には明確な区分があります。“クロコダイル”は，クロコダイル科のワニ各種を指す名称で，“アリゲーター”はアリゲーター科の各種（カイマンをふくむ）に対する名称です。ではこのクロコダイル科とアリゲーター科はなにがちがうのでしょう？

現生のワニたちは，クロコダイルもアリゲーターもみな姿かたちがよく似ており，正直なところわたしのような学芸員にも，各種を正確に区別するのは難しい場合があります。しかしクロコダイル科とアリゲーター科は，多くの場合顔に明確な違いがあります。注目すべきは歯の並びです。ワニの顔を横からみると，歯の並びが上下に波打っているのがわかります（図１，２）。このうち，左右のどちらか片方の歯の列について見たときに，口の先端からみて２つめの波の，前から数えて５番目の歯が，この波のいちばん下にくるのがクロコダイル科の特徴です（図１）。いっぽうで，アリゲーター科各種では，前から数えて４番目の歯がいちばん低い位置にきます（図２）。

ワニの歯列の波打ちには，大きな獲物を捕らえたり，その獲物をかみちぎったり，あるいは貝のような固い獲物をかみ砕くときに，力が加わりやすくなるという意義があると考えられています。いっぽう，その波打ちにおいて何番目の歯がいちばん低くにくるかということは，機能上は比較的“どうでもよい”ことのようです。そのため，波のいちばん低い位置にくる歯がたまたま５番目であった祖先から派生したものたちが現在のクロコダイル科各種，たまたま４番目だった祖先から派生したものがアリゲーター科各種であると考えられます。

ただし，一部では例外的なワニも存在します。現生のクロコダイル科には３種類（研究者によっては，４種類とすることもある），おもに魚を食べてくらすワニがいます。こうした種はどれも，口先が細長く伸び，歯並びが上下に波打ちません（図３）。これは，魚のようにワニからみて小型の獲物を捕らえるうえでは，大きな力を加えやすい波打ち状の歯列は必要なく，水中でも魚を追いかけて素早く振り回せる細長い口と，均一に並ぶ歯のほうが都合がよかったからでしょう。こうした構造は，現生種では一種しかいないガビアル科という，やはり魚が主食のワニと共通した特徴です。

日本で野生のワニの生態を観察することはできませんが，剥製のワニたちの顔つきに着目して，この種類はどういったものを食べてくらしているのだろうと想像してみるのも面白いかもしれません。

は虫類・両生類担当学芸員　江頭幸士郎

〈クロコダイル科〉

〈アリゲーター科〉

〈魚を食べて暮らすワニ〉